

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 佐世保市社会福祉協議会

目 次

佐世保市社会福祉協議会事業報告	P
組織体制	1
事業概要	2
地域福祉推進事業	3
【施設事業報告】	
介護事業所	16
勝富授産場	18
須佐保育園	19
吉井北保育園	21
児童センター	23
老人福祉センターやすらぎ荘	26
老人福祉センターあたご荘	28
宇久高齢者生活福祉センター慈恵苑	30
宇久地域包括支援センター	31

組織体制

施設・事業所名		住所	職員数
本所	法人運営課	八幡町 6-1	75名
	地域福祉課		
	総合相談支援課		
ボランティアセンター		戸尾町 5-1	2名
佐世保介護事業所		八幡町 6-1	25名
吉井介護事業所		吉井町橋川内 570-4	55名
世知原介護事業所		世知原町栗迎 83-5	15名
宇久介護事業所		宇久町平 1904-1	36名
小佐々介護事業所		小佐々町楠泊 1530-3	42名
江迎・鹿町介護事業所		江迎町赤坂 282-24	42名
勝富授産場		勝富町 2-17	7名
須佐保育園		須佐町 1-9	22名
吉井北保育園		吉井町直谷 1065-1	20名
大野児童センター		田原町 8-37	6名
相浦児童センター		相浦町 357	7名
春日児童センター		春日町 18-9	5名
山澄児童センター		潮見町 14-14	6名
宇久児童センター		宇久町平 1910-1	5名
稲荷児童センター		稲荷町 2-5	5名
黒髪児童センター		黒髪町 52-5	5名
早岐児童センター		花高 1 丁目 6-45	5名
広田児童センター		重尾町 63	5名
老人福祉センターやすらぎ荘		花園町 10-35	5名
老人福祉センターあたご荘		中里町 9-2	6名
高齢者生活福祉センター慈恵苑		宇久町平 1911-1	5名
宇久地域包括支援センター		宇久町平 2578	4名

合計410名

事業報告

事業概要

3年以上続いた新型コロナウイルス感染症は、昨年10月をピークに感染者数が減少傾向となったが、感染予防対策の徹底と、地域の関係者と協力してコロナ前の取り組みに近づけることを模索する1年となった。

地域福祉事業においては、各地区のサロン活動や福推協の会長連絡会等が、オンラインを併用し、また、福推協構成員研修会では多くの関係者が受講できるように市内5か所におけるハイブリット方式で開催するなど、参集型に近づける取り組みを行なった。

また、地域活動の推進においては、いきいきサロンの新規開設は15か所に上り、コロナ禍の中で住民による自主的な取り組みを広げることにつながった。ボランティア・市民活動においては実践講座、出前講座をととしてボランティアに対する市民の理解を深め、また、災害ボランティアネットワークの推進については、県内市町社会福祉協議会との災害時相互応援協定を締結するとともに、災害ボランティアセンター設置運営訓練を小佐々地区自治協議会と連携して実施するなど、市民の災害対応の意識を高めた。

ふくし教育については、いきいきサロンで講座を行ない、学校においてはオンライン方式によって行ない、企業においては企業のニーズを踏まえ、介護技術をテーマにしたプログラムを実施するなど、幅広く啓発を行った。

生活支援や自立支援の取り組みについては、低所得者や高齢・障がい者世帯の支援を行うとともに、引き続きコロナ関連貸付も行った。また、早期にコロナ関連貸付を受けた方の返済について、県社協と連携し返済に関する相談、手続きについて対応した。

成年後見制度については、各地区の民児協を対象に説明会を実施するとともに、専門職によるネットワークの構築を進めた。福祉人材バンク事業においては、合同面談会やミニ説明会などを開催し広域的な人材確保につなげた。

一方、各施設事業ではコロナ感染症予防を徹底しつつ事業を継続したが、グループホームよしいの郷においては、職員と利用者が感染し、施設運営が難しい状況が発生したが、各介護事業所から看護師などを応援派遣することで乗り切ることができ、連携の大切さを実感する結果となった。また、保育園事業においても、職員の感染や利用者の感染が発生したが、市の指導による登園自粛依頼を行ない、利用者の協力を得ることで休園を回避した。

本年5月8日からコロナ感染症は感染症法上の分類においてインフルエンザと同じ分類となり、各事業者の主体的な判断により感染予防対策を実施していかなければならないこととなった。利用者を感染から守るためには、まず職員が感染しないことが大切であり、基本的な感染対策を継続していかなければならない。

地域福祉推進事業報告

1. 地域の課題把握・解決のための仕組みづくり（様々な課題に対応した相談体制・連携の充実）

（1）課題を解決するための体制づくりと活動の促進

①地域福祉を推進する組織の基盤強化と活動支援

ア. 地区福祉推進協議会・地区自治協議会福祉関係部会（福推協等）との連携・支援

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、昨年度と同様に小地域での地域福祉活動が自粛や中止となる一方で、感染予防対策を徹底し、各地区福推協等において計画されていた事業やサロン活動等をはじめ、従来からの取り組みが再開される動きが出てきた。

また、福推協等会長連絡会や福推協等の構成員を対象とした研修会は、感染予防対策のもと、参集型（ハイブリッド方式含む）で実施するなど、状況に応じた対応ができるようになった。

《福推協等会長連絡会》

第1回 令和4年7月（書面開催）

- ・自治協議会との再編、合流について、福推協等構成員研修会について、令和3年度事業報告、令和4年度事業計画について他

第2回 令和4年10月28日

- ・防災ゲーム（クロスロード）、新型コロナウイルス感染拡大による地域活動の変化について、地域の見守り活動について他

第3回 令和5年3月23日

- ・会長連絡会の役割と活動内容について、佐世保市ボランティアセンターの事業について、ふれあいいきいきサロンの運営について（情報交換）、令和5年度事業スケジュール（案）について他

《福推協等構成員研修会》

アルカス佐世保、広田地区・小佐々地区・黒島地区コミュニティセンター、社協宇久支所の市内5会場においてハイブリッド方式（オンライン配信）で実施。

・令和5年3月7日

基調説明「地区福祉推進協議会及び地区自治協議会福祉関係部会について」

説明者：佐世保市社会福祉協議会 地域福祉課

講演「誰も見逃さない福祉そしてひとづくりとは」

講師：鎮西学院大学現代社会学部社会福祉学科 教授 岩永秀徳 氏

イ. 33地区福推協等の活動費の一部を助成

福推協等組織の強化と円滑な運営及び地域福祉活動を推進するために活動費の一部を助成した。

また、地域ふれあい推進事業補助金として、住民同士の支え合い活動及びボランティアによる生活支援サービス等に対する立ち上げ費用の一部を助成した。

- ・社協会費還元金（地区の30%）、共同募金配分金（地区の5%）、市補助金
- ・福推協「地域ふれあい推進事業」補助金 10 地区福推協等 875,000 円

②多機関協働による地域の相談支援体制の構築

地域の課題や地域の実践活動に関する情報の共有を図るとともに、課題の解決に向けた取り組みを検討するために、地域で実働する専門機関や専門職による「地域福祉・生活支援ネットワーク会議（第1層協議体）」を開催した（第1層生活支援コーディネーターと連携し取り組んだ）。

第1回 令和4年9月13日

- ・令和3年度生活支援体制整備事業実績報告、令和4年度生活支援体制整備事業計画、第二層活動報告（さわやか・しかまち）の他、継続可能な生活支援サービスの体制の維持について協議を行った。

第2回 令和5年3月8日

- ・第一層からの取り組み報告、佐世保市社協からの取り組み報告、重層的支援体制事業について意見交換を行った。

③身近に相談できる体制づくり（地域カフェの設置に向けた検討）

世代を問わず、地域住民の誰もが、いつでも、気軽に立ち寄れる「場」としての「地域カフェ」の設置に向けて、地区コミュニティセンターを想定した協議を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり進展させることができなかった。

（2）情報発信力の強化

①福祉サービス利用者の選択に役立つ情報提供

ア. 社会資源情報の収集整備（くらしに役立つ福祉情報ガイド）

ホームページ上に掲載している、佐世保市の福祉に関する相談窓口や各種福祉サービスに関する情報、NPO・市民活動団体等の情報を随時更新するとともに、新たな情報を掲載し、市民への福祉に関する情報提供に努めた。

※フォーマルサービス 186 件、インフォーマルサービス 126 団体の情報を掲載
アクセス件数 13,106 件

2 地域における福祉活動の充実と人材育成（様々な課題を解決できる地域力の強化）

（1）住民による自発的な地域活動の推進

①ふれあいいきいきサロンの支援・推進

ア. ふれあいいきいきサロン情報交換会の実施

サロン代表者やボランティア、福推協等会長を対象に、「スマートフォンを活用したつながりづくり」をテーマにした講座を開催した。

- ・令和4年7月7日 広田地区コミュニティセンター 参加者 22 名
- ・令和4年7月12日 山澄地区コミュニティセンター 参加者 21 名
- ・令和4年7月13日 江迎地区文化会館インフィニタス 参加者 18 名

イ. ふれあいいきいきサロンの開設の推進

福推協等会長連絡会、地区福推協総会、地区民児協定例会、町内役員会等でサロン活動の意義や必要性について、事例をもとに説明し開設をはたらきかけた。また、サロン開設に向けたプログラムの内容や年間計画の作成支援をはじめ、地域ふれあい推進事業補助金による活動費の支援を行った。

- ・サロン数 278 カ所 新規開設 15 カ所
- ・活動費の支援 8 地区福推協 活動費補助 225,000 円
- ※運営費補助（1 回 1,000 円、年間 12,000 円上限）

ウ. ふれあいいきいきサロン・自主活動グループへの支援

サロン及び自主活動グループに対し、職員が訪問してレクリエーション等の実施や本会が所有する遊具の貸出を行った。

- ・職員訪問支援回数 352 回
- ・貸出遊具 58 種類

エ. 「ふれあいいきいきサロン・バグジー交流大会」の開催

令和 4 年 10 月に予選、令和 4 年 11 月に本選を計画をしていたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止した。

オ. 地域共生サロン（地域の居場所）づくり

子どもから高齢者まで、対象を定めず誰でも参加できる共生サロンの設置を推進した。

新規に 1 カ所開設（累計 21 カ所） 天神地区「よっといで東天サロン」

②食を通した地域活動の支援

ア. 食事サービスへの助成

一人暮らしの高齢者や障がい者、高齢者夫婦世帯等を対象に、各地区の町内婦人部や福推協等が行っている食事サービスに対し、一食あたり 260 円を助成した。

- ・活動実績に応じた助成

32 グループ 延べ 6,716 食 助成金 1,746,160 円

イ. 食事サービスグループリーダー研修等の開催

コロナ禍における感染予防の理解を深めるとともに、感染症の対策を行いながら活動を継続していくための方法を学び、より一層の活動の充実を図ることを目的にリーダー研修会を行った。

- ・令和 4 年 7 月 4 日 山澄地区コミュニティセンター 参加者：22 名

内容：「コロナ禍における感染症の予防について」

講師：佐世保市保健福祉部 保健福祉政策課 課長 濱崎 利樹 氏

生活衛生課 課長 平島 陽一 氏

ウ. 食材提供企業との連絡調整等

子ども食堂などの地域活動を支援するため、市民や企業への広報、食材提供企業との連絡調整を実施した。

- ・令和 5 年 1 月「株式会社ミラクル乳業」様より総数 400 個を超える乳製品を提供していただき、子ども食堂ネットワークへ繋いだ。

③コミュニティビジネスに関する研究

地域住民が主体となり、地域課題の解決のために取り組まれる、地域に根差した事業活動（コミュニティビジネス）に関する全国各地の情報収集を行った。また、農福連携等、今後の展開、取り組みについて関係者との意見交換を行った。

④ふれあいネットワーク支援事業

要援護高齢者及び障がい者等に対して、近隣の住民を中心としたネットワーク化を図

り、その構成員が対象者を訪問し、安否確認や日常生活を支援することにより安心して生活できる環境を整え、住民へのボランティア意識の高揚と育成を図った。

・対象者 521 ネット ・構成員 1,666 名 ※令和 5 年 3 月末現在

⑤生活支援体制整備事業（市委託）

地域包括ケアシステムの構築に向けた、生活支援・介護予防の充実を推進することを目的として 10 地区（中里皆瀬・北・吉井・世知原・江迎・鹿町・小佐々・宇久・早岐・黒島）において、生活支援体制整備事業を次のとおり取り組みを実施した。

- ・地区内における課題収集及びニーズ把握（アンケート調査など）
- ・生活支援体制整備事業における協議体（支え合い推進会議）の開催
- ・生活支援サポーター養成講座の実施
- ・生活支援サービスグループ等の立ち上げ支援

中里皆瀬地区：買い物行こう会、買い物サロン

吉井地区：おもやいネットよしい 世知原地区：ささえ愛たい世知原

小佐々地区：こさざ・すまいる会 鹿町地区：さわやか鹿町

- ・その他、広報活動（広報紙の発行、ブログ・ホームページ掲載）など

（2）ボランティア・市民活動の推進（させば市民活動交流プラザ内）

①ボランティアセンターの運営

市民のボランティア・NPO・市民活動への参加を広く呼びかけるとともに、活動が浸透するための事業や支援をしていくことで、市民のボランティアに対する理解、参加を促進し、地域の活性化につなげた。

- ・ボランティア登録 個人 298 名、団体 52 グループ（2,952 名）
- ・ボランティアセンター別館研修室の貸出 延べ利用者数 1,819 名（8 団体）

②ボランティア活動の支援

ア. ボランティアグループへの研修費補助

登録ボランティアグループ（登録 1 年以上）が実施する自主研修や、外部研修会参加に要する経費の一部を助成した。

- ・11 グループ 500,000 円

エ. ボランティア入門講座の開催

- ・令和 4 年 6 月 18 日 参加者：16 名（会場 9 名、オンライン 7 名）
- ・令和 4 年 11 月 20 日 参加者：14 名（会場 11 名、オンライン 3 名）

オ. ボランティア実践講座等の開催

- ・令和 4 年 7 月 28 日（令和 4 年 10 月 30 日に延期）
「災害ボランティアについて」 参加者：19 名
- ・令和 4 年 9 月 11 日 「環境ボランティアについて」 参加者：30 名
- ・令和 5 年 2 月 25 日 「収集ボランティアについて」 参加者：21 名

カ. ボランティア出前講座の開催

- ・令和4年6月22日 テーマ：ボランティア入門
佐世保市肢体障害者協会「肢体協ボランティアサポート委員会役員勉強会」
- ・令和4年7月14日 テーマ：ボランティア入門
長崎県すこやか長寿大学校「第9期シニアいきいきカレッジ」
- ・令和4年9月24日 テーマ：ボランティア入門
佐世保市肢体障害者協会「ボランティアサポート委員会発足会」
- ・令和5年2月23日 テーマ：災害ボランティア
宇久地区福祉推進協議会「宇久地区福祉講座」

キ. ボランティア活動保険加入促進

ボランティア活動者が、より安心して活動に取り組むための環境整備を目的に、活動中の事故を補償する「ボランティア活動保険」への加入を促進した。

- ・加入者数 2,476名

③災害ボランティアネットワークの推進

ア. 災害ボランティアネットワーク連絡協議会

平常時から顔の見える関係を構築することを目的に、19機関・団体による「災害ボランティアネットワーク連絡協議会」の会議を開催した。

第1回 令和4年7月1日

- ・令和3年度事業報告について、連絡協議会新規構成団体の加入について他

第2回 令和5年2月3日

- ・災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施
- ・平常時並びに災害発生時における各団体の取り組みについての確認修正

第3回 令和5年3月24日

- ・講話「災害ボランティアと災害ボランティアセンターについて」

佐世保市社会福祉協議会地域福祉課より

- ・災害ボランティアセンター設置運営訓練の振り返り
- ・令和5年度事業スケジュールについて他

イ. 長崎県災害ボランティア連絡会への参画

本会職員が会議に出席し、情報共有及び参加団体との繋がりづくりに努めた。

ウ. 災害ボランティアセンターの運営支援に関する協定

- ・令和4年4月8日「災害ボランティアセンターの運営支援に関する協定」をライオンズクラブ国際協会337-C地区と締結。
- ・令和5年2月10日「長崎県内社会福祉協議会災害時相互応援協定」を長崎県内22市町社会福祉協議会と締結。

④災害ボランティアセンター設置運営訓練及び研修会の実施

災害ボランティアセンターによる支援活動が円滑に実施できるよう設置運営訓練

を計画し、また市民の災害ボランティアに関する意識の向上を目的とした研修会を実施した。

ア. 佐世保市総合防災訓練における災害ボランティアセンター設置運営訓練

- ・令和4年9月1日 陸上自衛隊相浦駐屯地 参加者：56名
災害ボランティアセンターの開設、ボランティアの受付、マッチング、送り出し等の実践演習を行った。

イ. 小佐々地区自治協議会との連携による災害ボランティアセンター設置運営訓練

- ・令和5年2月3日 小佐々地区コミュニティセンター 参加者：55名
災害ボランティアセンターの開設、ボランティアの受付、マッチング、送り出し等の実践演習を行った。

ウ. 災害ボランティア研修会の実施 ※佐世保地域支え合いセミナーとして実施

- ・令和4年12月6日 講演「被災地にみる地域防災の大切さと、災害ボランティア活動」
講師 雲仙市社会福祉協議会 事業企画課
地域福祉班 係長 柿川 知一 氏
参加者 65名（来場45名、オンライン20名）

エ. 災害時対応マニュアルの改訂

災害時において本会職員及び組織として迅速に対応するために必要な初動体制の確立、本会職員の防災意識の向上につなげるために策定しているマニュアルについて、災害警戒レベルの表示変更や組織改編に伴い改訂した。

(3) 共に生きる地域づくりの推進

①ふくし教育の実践

ア. ふくし教育実践体制の基盤づくり等

地域住民を対象としたふくし教育の実践活動を広げるために、地域のいきいきサロン等において、防災に関する講座やコロナ禍における思いやり・つながりづくりをテーマにした講座を実施した。

イ. 学校におけるふくし教育の推進

市内小中学校からの相談に応じ、プログラムの提案や講師の連絡調整等の支援を行い、児童・生徒の「共に生きる力」を育むふくし教育を推進した。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底するため、体験活動や講師との交流などを工夫するとともに、オンライン方式による講話なども取り入れた。

- ・小学校 20校 ・中学校 2校

ウ. 企業に向けたふくし教育の推進

企業におけるふくし教育を推進するため、企業の内部研修に活用できる「企業向けふくし教育実践プログラム集」を作成した。また、企業の社員研修において、「介護技術」をテーマとしたプログラムを実施した。

- ・ふくし教育実践企業数 1社（長崎総合警備保障㈱） 参加者：12名

エ. ふくし教育推進フォーラムの開催 ※佐世保地域支え合いセミナーとして実施
地域住民や学校関係者等のふくし教育への関心を高めることを目的に開催した。

令和4年12月2日 講演 「地域共生社会の実現に向けたふくし教育
～子どもの参加と協働を目指して～」

講師 長崎国際大学人間社会学部 准教授 梅野潤子 氏

参加者 67名(来場49名、オンライン18名)

オ. ふくし教育推進委員会の開催

ふくし教育の推進における今後の進め方に対する助言など必要な支援を受けることを目的として、13機関・団体で構成するふくし教育推進委員会を開催した。

第1回 令和4年8月8日(オンライン会議)

・令和3年度事業報告について、令和4年度事業計画について

第2回 令和5年3月9日

・令和4年度経過報告について、視察研修報告

②地域福祉活動への意識啓発

ア. 地域福祉講演会の開催 ※佐世保地域支え合いセミナーとして実施

市民をはじめ、保健・医療・福祉の分野における事業所やNPOなど、様々な機関や団体の方々に地域福祉への理解と関心を深めてもらうことを目的に開催した。

令和4年12月12日

講演 「当事者の人生から考えるヤングケアラー支援の方法」

講師 一般社団法人 ヤングケアラー協会 川原 滉介 氏

参加者 68名(来場42名、オンライン26名)

3 自立した生活を支える福祉サービスの展開(様々なニーズに応じた福祉サービスの充実)

(1) 生活支援・自立支援等の取り組み

①資金貸付事業

ア. 長崎県生活福祉資金貸付事業

失業者世帯、低所得者世帯、高齢・障がい者世帯の経済的自立や生活意欲の助長を促し、安定した生活を営むことを目的に資金貸付けを行った。

新型コロナウイルス感染症の影響による収入減少があった世帯に対し、下表のとおり緊急小口資金等特例貸付を行った(令和4年9月末終了)。

イ. 佐世保市福祉資金貸付事業

市内に1年以上居住し、生活が困窮な世帯で、生活再建に必要な融資を他から受けることが困難な世帯を対象に、無利子で小口資金の貸付けを行った。

種 別	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	件数	実績額(円)	件数	実績額(円)	件数	実績額(円)
生活福祉資金	78	64,014,000	83	76,405,000	50	36,503,000
総合・緊急特例貸付	2,829	1,003,343,000	2,550	1,064,600,000	386	140,850,000
福祉資金(小口資金)	206	4,215,000	194	3,954,000	175	3,493,000
計	3,113	1,071,572,000	2,827	1,144,959,000	611	180,846,000

②日常生活自立支援事業（県社協委託）

判断能力が十分でないために、地域で自立した生活ができない方（認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等）を対象に、利用者との契約に基づき福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理の代行を行い、安心した生活ができるよう支援した。

- ・実利用者数 183 名（新規 26 名、解約 30 名）

③生活困窮者自立相談支援事業（市委託）

生活困窮者が経済的困窮状態や社会的孤立から脱却することを支援するため、相談窓口の設置、生活困窮者の把握、自立支援計画の作成、自立支援計画支援調整会議の開催などを行った。

- ・新規相談件数 755 件

〔対応内訳〕 情報提供など 439 件、他制度・他機関等へのつなぎ 121 件
本事業による継続支援 195 件

- ・自立支援計画作成件数 214 件 ※再支援計画作成を含む。
- ・支援調整会議開催回数 18 回

④させば成年後見センターの運営事業

ア. させば成年後見センターの運営

認知高齢者、知的障がい、精神障がい等により判断能力が十分でない方に対し、家庭裁判所の選任により、本会が成年後見人等となり、成年被後見人等が安心して生活を継続できるよう福祉サービス利用の契約等の支援を行った。

- ・成年後見制度の実利用者数 21 件（補助 4、保佐 7、後見 10）

イ. 成年後見制度促進事業（市委託）

成年後見制度の利用促進に関する法律に基づく中核機関として、市と社協で協働して取り組み、機能強化と拡充を図った。市民向け講演会の開催や民生委員児童委員協議会で成年後見制度の普及啓発を行うほか、行政や地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、弁護士、司法書士、社会福祉士などの専門職とのネットワークの構築をすすめる、成年後見制度の利用が促進されるよう取り組んだ。

- ・市民向け講演会の開催

令和 4 年 10 月 14 日 参加者 107 名

- ・第 1 回情報交換会の開催

令和 4 年 8 月 19 日 参加者 46 事業所 75 名

- ・第 2 回情報交換会の開催

令和 5 年 2 月 20 日 参加者 37 事業所 49 名

- ・フォローアップ研修の実施

令和 5 年 1 月 28 日 参加人数 22 名（養成講座修了及び生活支援員）

- ・専門職会議開催の回数 1 回

- ・成年後見制度の申立て支援人数 40 名

後見人等確定者数 8 名 家裁の審理中 1 名

申立て準備中 15 名 継続支援人数 11 名

支援中止人数（死亡等）4 名

4 自立支援・相互扶助・地域活動を実践するために必要な基盤整備

(1) 地域福祉カルテの情報更新

福推協等を単位とする圏域において、基本情報（人口・高齢者人口他）、社会資源の状況、地理的特徴や交通・生活の利便性、地域の課題・特性などをまとめ、その地域に応じた既存の事業・活動の改善や新たなインフォーマルサービスなどを検討するための基礎資料として作成した地域福祉カルテの情報更新を行った。

(2) 福祉人材バンク（県社協委託）

①福祉人材無料職業紹介事業

広域的な福祉人材確保対策の推進を図るため、求職者への就職斡旋及び相談受付を行いながら、地域住民や社会福祉施設・事業所が福祉人材バンクを積極的に活用できるよう広報・啓発を行った。

求職・求人对応、様式の統一など、長崎県福祉人材センターと一体的に実施するため月1回の定例会を行い業務の効率化・マッチング支援の強化を図った。

- ・求人登録件数 673件（延べ） ・求職登録者数 170名（延べ）
- ・ハローワーク佐世保との連携 新規3名の内就職者2名
- ・出張相談（ハローワーク佐世保・江迎・西海） 42回（相談件数34件）
- ・広報、啓発活動 社協だより掲載、社協HP掲載、各関係先へチラシ送付
- ・他団体主催の就職セミナー、合同面談会へのブース出展

ハローワーク佐世保・江迎・西海

②福祉・介護の就職合同面談会

令和4年6月12日（日） 長崎国際大学 参加者30名

③福祉・介護の職場ミニ説明会

中途採用者を中心とした求人に対し、福祉職場への就職を希望する一般の方を対象に開催した。 参加者計97名

開催日	会 場
令和4年7月12日	日宇地区コミュニティセンター
令和4年8月9日	まちなかコミュニティセンター
令和4年8月26日	相浦地区コミュニティセンター
令和4年9月22日	アルカスSASEBO
令和4年10月28日	西海町公民館
令和4年11月26日	ソレイユ吉井
令和4年11月29日	介護ロボット体験会及び福祉関係高校生向けミニ面談会 吉井地区コミュニティセンター
令和4年12月9日	田平町民センター
令和5年2月17日	川棚町公民館 ※県社協、大村市社協、川棚町社協、東彼杵町社協、波佐見町社協 共催

〔広報先〕

施設・事業所への開催案内、求職登録者への開催案内、県北地区学校訪問、県北地域の社協だより掲載、関係機関への開催案内、「we l なが」HP掲載、本会HP掲載、ならでわ掲載、長崎・西日本・読売新聞掲載・折込、商業施設等へのチラシ・ポスター設置、地域住民への広報・ポスティング（東彼3町、佐世保市内）、LINE、広報させば、佐世保市HP・Twitter、佐世保・県北圏域介護人材育成確保対策地域連絡協議会出席者への周知、佐世保東翔高校職業人講話・介護総合演習の講話、江迎ふくし音楽祭でチラシ配布、コミ・フェスこさざイベント福祉の広場でチラシ配布

④マッチング機能強化事業

- ・県北地域の施設、学校等訪問 173回
- ・LINE開設 友達追加77件、対応総数10件、面談会情報等随時配信

5 広報啓発に関する事業

（１）社協だよりの発行

地域福祉を推進している各地区の福推協活動や、ボランティア活動及びその活動を支援している本会の取り組みを、市民に分かりやすく伝え、福祉意識の向上と地域福祉活動への理解と関心を深めることを目的に年3回発行した。

また、社協だよりの内容をCDに吹き込み、視覚障害者の方へ「声の社協だより」として配布するとともに、本会事務局及び老人福祉センター3カ所へサンプルCDを設置し、市民への周知を行った。

- ・社協だより 7月、10月、3月（各100,000部発行 全世帯配布）
- ・声の社協だより 発行ごとにCD30枚作成

（２）「地域福祉かわら版よもーで」の発行

社協だよりを発行することができない時期のタイムリーな情報や、若い世代を含めた様々な世代が興味を持ち、地域福祉活動への理解を広げることを目的に年3回発行した。

- ・5月、9月、1月（各4,000部発行 地区コミュニティセンター、図書館、福祉施設・団体、各学校、ショッピングセンター等）

（３）ボランティア・NPO 関係広報紙「くれよん」の発行

市民にボランティア・NPOに関する様々な情報を提供し、活動への関心と理解を深め、活動参加へのきっかけになることを目的に年6回発行した。

- ・偶数月（各4,450部発行 個人ボランティア、ボランティアグループ、地区コミュニティセンター、図書館、福祉施設・団体、各学校、ショッピングセンター）

（４）ホームページによる広報など

本会活動全般の紹介、また、地域福祉に関わる新しい情報の発信に努めた。また、マ

スコミ（新聞各社、佐世保市内のテレビ局、ラジオ局、タウン誌）に協力を依頼し、本会事業のPRに取り組んだ。

6 地域活動への支援や見舞金の配付などに関する事業

（１）地域活動支援

①福祉団体の支援

地域で活動する福祉団体へ運営費・事業費を助成し、その運営を支援した。

- ・民生委員児童委員協議会連合会及び主任児童委員部会
- ・老人クラブ連合会 ・視覚障害者協会 ・肢体障害者協会
- ・ろうあ福祉協会 ・手をつなぐ育成会 ・母子寡婦福祉連合会
- ・佐世保市遺族会 ・佐世保市保育会 ・青少年健全育成会

②社会福祉センターの運営

地域で活動する団体（個人）等へ会議室の貸出を行った。

- ・佐世保市社会福祉センター ・宇久社会福祉センター

③赤い羽根子どもの遊び場の整備

「赤い羽根子どもの遊び場」に設置されている、遊具、フェンス等の安全及び環境維持のため、３か所の遊び場に整備費を助成した。

④遊具・福祉車両・機器の貸出

地域で行われる催し物やサロン活動を支援するため、歳末たすけあい募金の配分金により新たに遊具を購入するなど貸出し用の遊具、備品の充実を図った。

また、公共交通機関を利用した外出が困難な障がい者や、高齢者の通院等のために、福祉車両や、車椅子、ポータブルトイレなど介護用具の貸出し、そのほか小・中学校での福祉体験学習用具の貸出しを行った。

- ・貸出件数：サロン遊具 92 件、車椅子 133 件、福祉車両 26 件、高齢者等疑似体験セット 21 件、綿菓子機・ポップコーン機 13 件、その他 27 件

（２）見舞金等配付事業

①災害罹災世帯への見舞金の支給

市内で発生した災害で被害を受けた被災者に対し見舞金及び弔慰金を支給した。

- ・火災見舞金 9 件（うち死亡弔慰金 1 件） ・水災見舞金 2 件

②福祉見舞金等の配付

市内の子ども食堂実施団体への支援を行った。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から個別対応を要する低所得世帯への見舞金は中止した。

区 分	配分額（円）	摘 要
子ども食堂実施団体への助成	253,000	7 団体
生活困窮世帯支援事業	142,117	紙おむつ等整備
事務諸費	150,000	
計	545,117	

③要援護世帯の小学校児童・中学校生徒への修学旅行費の助成

要保護・準要保護世帯の小学校児童及び中学校生徒へ修学旅行費（おこづかい）を助成した。

・小学校児童 372 名（@¥2,000） 中学校生徒 453 名（@¥3,500）

7 地域における公益的取り組み

（1）外出支援サービスに係る事業

「地域における公益的取り組みを実施する責務」の一環として、外出困難な高齢者等の移動手段の確保とコミュニティ機能の強化を図ることを目的に、本会が運営する介護事業所の空き車両を市民活動団体等に貸出す「車両の貸出事業」を小佐々地区圏域において実施した。 ※令和2年10月開始

- ・活動団体 こさざ・すまいる会 24 名
- ・利用登録者 24 名
- ・活動実績 令和4年4月～令和5年3月 45回の運行で延べ143名が利用

8 その他の事業

（1）安定した社協事業活動を支えるため、自主財源の確保に努めた。

特にホームページにおいて福祉協力店として団体・法人会員の紹介、また寄付者のお知らせを行い会員加入の促進と寄付協力者の増を図った。

ア. 社協会員の確保

（単位：円）

種 別	口 数	令和4年度実績額	令和3年度実績額
一般会員	24,648	4,929,679	4,833,402
賛助会員	1,362	1,362,000	1,372,000
団体会員	149	745,000	715,000
特別会員	172	1,145,000	1,245,000
計	26,331	8,181,679	8,165,402

イ. 社会福祉事業資金への寄付

（単位：円）

種 別	件 数	令和4年度実績額	令和3年度実績額
忌明寄付	80	2,292,500	2,190,300
一般寄付	30	1,279,040	1,220,264
指定寄付	4	1,600,000	47,500
物品寄付	11		
計	125	5,171,540	3,458,064

（2）共同募金運動への協力

長崎県共同募金会が行う募金運動の内、佐世保市分の受入に協力した。

ア. 赤い羽根共同募金（令和4年10月1日～令和4年12月31日）

※募金総額の46%が、次年度の地域福祉活動事業へ配分される。

(単位：円)

区 分	目 標 額	令和 4 年度実績額	令和 3 年度実績額
戸別募金	25,652,000	12,100,265	12,076,288
法人募金	2,000,000	1,748,000	1,624,000
街頭募金	300,000	83,030	27,935
職域募金	2,000,000	1,582,696	2,009,279
学校募金	2,000,000	1,398,752	1,820,724
特別募金	5,000,000	1,826,337	1,673,151
計	36,952,000	18,739,080	19,231,377

イ. 歳末たすけあい募金（令和 4 年 12 月 1 日～令和 4 年 12 月 25 日）

※配分金については、福祉見舞金等配付事業に活用した。（単位：円）

区 分	目 標 額	令和 4 年度実績額	令和 3 年度実績額
戸別募金	5,400,000	3,969,567	4,104,686
一般募金	100,000	839,956	496,282
法人募金	100,000	10,000	5,000
計	5,600,000	4,819,523	4,605,968

（3）要介護認定調査事業

長崎県から市町事務受託法人の指定を受け、佐世保市からの委託で、介護認定の申請をされた後に申請者を訪問し、日常生活動作など要介護認定に必要な調査事務を行った。

- ・調査員 22 名
- ・調査件数 6,408 件（令和 5 年 3 月末現在）

介護事業所報告書

介護保険制度や障害者総合支援法に沿って、利用者の自己選択・自己決定を尊重し、介護者や関係機関との連携を図り、きめ細やかな在宅サービスの提供を行った。

新型コロナウイルスの感染リスクがある中感染予防を徹底し、利用者及び職員の安全を確保し業務を継続した。

1. 運営体制

(1) 職員数 90名（正規42名・嘱託48名） パート職員125名 合計215名

2. 業務内容

(1) 居宅介護支援事業

介護を必要とされる方に、自宅で適切にサービスを利用できるように、居宅サービス計画の作成・相談・サービス調整等を行った。また、医療・保健・福祉サービスを総合的・効果的に利用できるよう提案し、住み慣れた地域で自立した生活が続けられるよう支援をした。

(2) 訪問介護事業

訪問スタッフの体調管理及び利用者の体調や行動を把握した上で家庭を訪問し、入浴・排せつ、食事等の介助（身体介助）や、掃除・洗濯・調理等日常生活の支援・相談・助言（生活援助）のサービスを実施した。

(3) 居宅介護事業

障害者総合支援法に基づく障がい福祉サービスのうち、訪問介護事業所のホームヘルパーが障がい者に対し、在宅で介護や家事等の日常生活の援助を行う居宅介護サービスを実施した。

(4) 訪問入浴介護事業・障害者訪問入浴サービス事業

自宅の浴槽での入浴が困難な方に対して、移動入浴車で家庭を訪問し、居室で簡易浴槽による入浴サービスを実施した。

(5) 通所介護事業

日中、老人デイサービスセンターに通ってもらい、入浴・食事の提供・機能訓練等を行う日帰りのサービスを実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため、利用時間の短縮や少人数で実施する等の対応を行った。

(6) 認知症対応型共同生活介護事業（グループホームよしいの郷）

認知症の高齢者が、介護スタッフとともに食事づくり、掃除、洗濯等をしながら少人数で共同生活を行う事業を実施した。スタッフの感染症対策を徹底し、利用者への外部からの面会制限を行った。

3. 利用実績

(1) 居宅介護支援事業

実績	佐世保	吉井・世知原	宇久	小佐々	江迎・鹿町	合計
R3 延人数	1,010	1,457	578	1,595	1,733	6,373
R4 延人数	994	1,716	502	1,657	1,831	6,700

(2) 訪問介護事業

実績	佐世保	吉井・世知原	宇久	小佐々	江迎・鹿町	合計
R3 延人数	10,312	7,344	2,471	5,224	7,543	32,894
R4 延人数	8,907	7,052	1,906	4,831	6,143	28,839

(3) 居宅介護事業

実績	佐世保	吉井・世知原	宇久	小佐々	江迎・鹿町	合計
R3 延人数	1,106	495	155	86	2,100	3,942
R4 延人数	651	436	210	98	1,929	3,324

(4) 訪問入浴介護事業

実績	小佐々
R3 延人数	437
R4 延人数	557

・ 障害者訪問入浴サービス事業

実績	小佐々
R3 延人数	265
R4 延人数	164

(5) 通所介護事業

実績	吉井	世知原	宇久	小佐々	江迎・鹿町	合計
R3 利用定員	35	30	35	55	55	
R4 利用定員	35	30	35	55	55	
R3 延人数	6,803	5,210	9,974	11,973	11,544	45,504
R4 延人数	7,418	5,206	8,678	11,489	11,176	43,967

(6) 認知症対応型共同生活介護事業（グループホームよしいの郷）

実績	吉井（利用定員 18 名）		
R3 延人数	6,343	入居率	96.5%
R4 延人数	6,190	入居率	94.2%

主な取組

職員の質の向上を目指し web 研修の受講、資格取得の促進に努めた。

新たに 5 つの委員会（虐待防止・リスクマネジメント・環境衛生・業務継続計画管理・介護事業運営）を設置し目的に沿った協議を行った。

勝富授産場事業報告

社会福祉法による授産施設の趣旨に基づき、低所得者や障がい者等を対象に、作業の提供をとおりて社会生活の能力を高めるとともに、知識や技能習得の向上を図った。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響がある中、縫製部、軽作業部ともに売り上げ増となった。

1. 運営体制

(1) 職員数 7名

場長 1名、指導員 3名（縫製部 2、軽作業部 1）

臨時職員 1名、パート職員 2名

2. 作業内容

- ・縫製部 紳士服、婦人服の補正及び作業着等の縫製
- ・軽作業部 紙箱等の組立、割箸の袋入れ、シール貼り他簡易作業

3. 利用実績

(1) 利用者数 (定員 20名) (3月末現在)

区 分	年 度	男 性	女 性	合 計
縫 製 部	R 3 年度	2 名	4 名	6 名
	R 4 年度	2 名	4 名	6 名
軽作業部	R 3 年度	2 名	6 名	8 名
	R 4 年度	2 名	7 名	9 名
合 計	R 3 年度	4 名	10 名	14 名
	R 4 年度	4 名	11 名	15 名

・利用者の内訳

① 生活保護 7名 ②みなし保護 5名 ③基準該当就労継続B型 3名

(2) 受注件数及び金額

区 分	年 度	件 数	金 額
縫 製 部	R 3 年度	1,116 件	2,561,293 円
	R 4 年度	1,221 件	3,086,606 円
軽作業部	R 3 年度	464 件	1,266,884 円
	R 4 年度	489 件	1,357,452 円
合 計	R 3 年度	1,580 件	3,828,177 円
	R 4 年度	1,710 件	4,444,058 円

(3) 工賃

区 分	年 度	支 払 総 額	1 人平均月額
縫 製 部	R 3 年度	1,432,166 円	17,024 円
	R 4 年度	1,548,083 円	19,572 円
軽作業部	R 3 年度	1,035,664 円	11,099 円
	R 4 年度	1,276,890 円	12,584 円

(4) 月平均出勤日数

・縫製部 19.0日 ・軽作業部 18.4日 (平均作業日数 20日)

須佐保育園事業報告

児童福祉の理念に立って、よりよい保育環境を整え、それぞれの年齢、能力、個性に応じた養護と教育が一体となった保育を進め、健やかな身体、豊かな情操、正しい社会性、道徳性の芽生えを培い、心身ともに健全な人間形成の基礎を養い感性を高めるよう努めた。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響がある中、子どもの健康と健全な発育を守るため感染対策を徹底し保育活動を行った。

1. 運営体制

- (1) 定 員 70名 月平均68名（前年度 月平均73名 年間876名）
 (2) 職員数 22名
 園長 1名 主任保育士 1名 副主任保育士 1名
 保育士 13名（常勤10・パート3） 調理員 5名（常勤3・パート2）
 用務員 1名
 (3) 開所時間 午前7：00 ～ 午後7：00

2. 業務内容

- (1) 保育目標
 ・じょうぶなからだ ・つよいところ ・おもいやりのところ ・つくりだすちから
 4つの目標を柱に、いろいろな経験の中で生きる力と豊かな心が育つように努めた。
- (2) クラス編成
 0歳児クラス(つくし組) 1歳児クラス(すみれ組) 2歳児クラス(なのはな組)
 3歳児クラス(もも組) 4～5歳児クラス(さくら組)
- (3) 行事

4月	入園対面式
5月	園外保育（桜組）
6月	運動会 芋さし(柚木) 交通安全教室 歯科検診 児童内科健診
7月	夏祭り（園児のみ） プール開き
8月	プール納め 実習生受入
9月	お店屋さんごっこ 交通安全教室
10月	園外保育（年長児・年中児・3歳児） 芋掘り(柚木)
11月	七五三参拝 お遊戯会
12月	焼芋パーティ 交通安全教室 クリスマス会
1月	郵便屋さんごっこ
2月	豆まき 縄跳び大会
3月	ひな祭り会 卒園式

避難訓練(月1回実施) 誕生会(月末水曜日) 体育教室(月2回金曜日 4～5歳児)
 珠算教室（火曜日・5歳児） 習字教室（木曜日・5歳児）

(4) 特別保育事業

①延長保育推進事業（年間）1,166 名

②世代間交流等事業（自主）

「元気にしてる？会」コロナ禍により未実施（高校1年 4月・小学1年 7月）

③園庭開放 育児相談（自主）

(5) 給食

①食材の味を活かし薄味を基本とし、新鮮な旬の食材を使い、季節感のあるバランスの取れた献立を工夫した。

②アレルギー、体調の悪い子どもには、細心の注意をはらい調理工夫した。

③食事のマナーを知らせ、友達や保育士とおいしく楽しく給食がとれるようにした。

④0 歳 児…家庭での離乳食の進み具合を聞き、連携を取りながら行っていた。

1～2歳児…野菜を少しずつ大きめに切り、歯ごたえのある素材を取り入れた。

3歳以上児…副食のみ給食実施。クッキング保育を通して、食材や調理器具の使い方、料理の楽しさを知らせ、食育につなげた。

(6) 健康管理

朝の受け入れの際、丁寧に視診を行い、一日健康で楽しく遊べるように配慮した。

①園児

ア. 内科健診（池田医師 6月、12月実施）

イ. 歯科検診（平野医師 6月実施）

ウ. 尿検査 （3歳以上児 年2回実施）

エ. フッ化物洗口（4.5歳児 週5日実施）

②職員

ア. 定期健康診断（年1回実施）

イ. 検便 （月1回実施）

(7) 職員研修・会議

①外部研修

ア. 園長会 保育士研修会 他 リモート会議等

②園内研修

ア. 給食検討会（月1回）メニュー等の反省を行い、より良い献立に努めた。

イ. 研修 （月1回）研修会の報告を行い、知識を深め合い保育技術の向上に努めた。

ウ. 会議 （月4回）保育内容、行事の検討等を行い、保育内容の充実に努めた。

3. 利用実績

年齢別・月別入所児童数（各月初日現在）

月 園 児	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
乳 児	3	4	5	6	7	8	10	11	11	11	12	12	100
1～2歳児	22	22	22	23	22	22	22	22	22	22	22	22	265
3歳児	14	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	150
4歳以上児	25	24	24	26	25	24	24	26	26	26	26	26	302
計	64	63	64	68	67	66	68	71	71	71	72	72	817

吉井北保育園事業報告

児童福祉の理念に立って、よりよい保育環境を整え、それぞれの年齢、能力、個性に応じた養護と教育が一体となった保育を進め、健やかな身体、豊かな情操、正しい社会性、道徳性の芽生えを培い、心身ともに健全な人間形成の基礎を養い感性を高めるように努めた。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり、保育園の活動が制限される中で、保育内容を充実させるよう努力しながら保育をおこなった。私達は、保育の原点に基づき温かく丁寧な保育に心がけ子どもの発達の援助を行い、よりよい保育環境を整えるようにした。

1. 運営体制

(1) 定 員 60名 月平均 38.3名(前年度 月平均41.5名 年間498名)

(2) 職員数 20名

園長 1名 主任保育士 1名 保育士 13名(常勤5・パート8)

パート看護師 2名 調理員 3名(常勤2・パート1)

(3) 開所時間 午前7:00~午後7:00

2. 業務内容

(1) 保育目標

子どもたちは、未来に向けてのあらゆる可能性をそのうちに秘めている。日々の保育の中で伸びゆく芽を見つけ、愛情あふれる環境の中で大切に育てていくことを目標とし保育に努めた。

- ・のびのびと遊べる子ども・友達となかよくできる子ども
- ・自然に親しみ、お年寄りやさしくふれあえる子ども

(2) クラス編成

0歳児クラス(たんぽぽ組) 1歳児クラス(すみれ組)

2・3歳児クラス(もも・うめ組) 4・5歳児クラス(さくら・ひまわり組)

(3) 行事

4月	入園対面式 進級式
5月	歯科検診 歓迎遠足(園児のみ) 尿検査(3・4・5歳児)
6月	運動会(午前のみ) 交通安全教室 芋さし 内科健診
7月	七夕集会 プール開き 交通安全教室
8月	プール納め 夏祭り
9月	防災訓練(非常食体験) 交通安全教室 クッキング デイサービス訪問(コロナの為に中止)
10月	尿検査(3・4・5歳児) 交通安全教室 保幼小交流会(吉井北小にて) 内科健診 消防総合訓練
11月	発表会 七五三参拝 芋ほり 年長児バス遠足 ふれあい発表会
12月	保育参観(未満児・以上児各週) クリスマス集会 クッキング 交通安全教室
1月	消防団による放水見学 風あげ大会 郵便屋さんごっこ お店屋さんごっこ
2月	交通安全教室 節分集会 縄跳び大会 防犯訓練(江迎警察署指導)
3月	ひな祭り集会 卒園式 お別れバス遠足 お別れ会 移行式 修了式

〔年間〕 たのしいリズム（外部指導 年24回） 和太鼓（外部指導年24回）

防犯指導（江迎警察署 年1回） 体育教室（月1回）

〔毎月〕 誕生会 身体測定 避難訓練

（4）特別保育事業

①延長保育促進事業（延長保育事業）…年間延べ人数 651人

②世代間交流事業…単独事業（年5回実施→1回実施 延べ30人）

③異年齢児交流事業…単独事業（年1回実施 0人 新型コロナウイルスの為に中止）

④一時預かり事業…単独事業（年間延べ人数 37人 佐世保市・広域）

⑤園庭開放…単独事業（利用者5名）

（5）給食

友だちや保育士、更に調理員などと一緒に食事をする事で人とのかかわりを持って、楽しく食べる事により、料理をつくる人にも関心を持たせた。また、季節の野菜を育てたり、収穫した野菜等で調理をしたりすることで食物に関心を持ち、できるだけ多くの食材や種類の食べ物や料理を味わえるよう工夫した。また、新型コロナウイルス感染症により、パーティションを継続して使用し、飛沫防止、安全面には特に留意し、国内産の食材を使用するように努め、特に離乳食やアレルギーを持った園児に対しての配慮を心掛けた。

（6）健康管理

乳幼児の安全を守り、体調不良の子どもへの対応など健康面・食事面における対策に 配慮し、健やかな成長を推進するように心がけた。

①園児

ア. 内科健診（松瀬診療所…6月・10月実施）・尿検査（3歳以上児 年2回実施）

イ. 歯科検診（法師山歯科医院…5月実施）・フッ化物洗口（4・5歳児 週6日実施）

②職員

ア. 定期健康診断（年1回）

イ. 検便…全職員実施（毎月）

（7）職員研修・会議

①外部研修

ア. 園長会 主任保育士研修会 給食部会 保育士研修会 キャリアアップ研修会他

②園内研修・会議

ア. 職員会（月1回以上）行事等の内容及びケース会議を行い保育内容の充実を図った。

イ. 給食検討会（月1回）改善点を反映させ、よりよい給食を提供できるように努めた。

ウ. 研修報告会・会議（随時）報告会・勉強会を重ねることで、職員各自の意識向上を図った。また、自分の保育のやり方を振り返り、反省し、助言を受けスキルアップに繋げていった。

3. 利用実績

（1）年齢別・月別入所児童数（各月初日現在）

月 園児	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
乳児	3	4	4	5	5	6	7	8	8	8	9	9	76
1～2歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
3歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
4歳以上児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
計	35	36	36	37	37	38	39	40	40	40	41	41	460

児童センター事業報告

児童福祉法に基づき、児童に健全な遊びを与えその健康を増進し、情操を豊かにするとともに、地域における健全育成活動の拠点として学校、放課後子ども教室、児童クラブ、子ども会及び留守家庭児童保護者等との連携を図りながら様々な活動を展開した。

新型コロナウイルス感染症拡大は減少傾向にあったが、慎重に活動に取り組んだ。

1. 運営体制

(1) 職員数 49名

館長 9名 児童厚生員 8名 嘱託児童厚生員 11名
パート職員 21名

2. 事業内容

(1) 単館事業

児童センター利用児童の参加による運動遊びや体験学習などを通して、子どもの個別的、集団的援助活動を推進し、自主性、社会性、創造性を健やかに育てることを目的に次の事業を実施した。

①年間事業

各児童センターの自由な企画で年間を通して、季節行事、工作、スポーツ、音楽などを地域のニーズや子ども達の状況に合わせた内容で提供し、また、子育て支援のため週5回の特別開館を実施した。さらに、ホームページや月1回発行の児童センターだよりにより活動状況やイベントなどについて情報発信している。

本年度もコロナ感染防止のため事業を中止したり、規模を縮小したりして実施するなど年度当初の計画通りには実施できない館があった。

②自然体験活動事業

花や野菜を育てたり、電車を利用して地域のまつりに参加したり、児童センター付近を散策し自然と関わるなど、野外での活動を行い、子ども達の豊かな情操を育む支援を実施した。

③子どもボランティア育成支援事業

地域を巡回してごみ拾い活動、高齢者施設を訪問し手作りの品物をプレゼントする活動あるいはイベントスタッフの一員として活動することにより、児童の自発的な意志に基づき他人や社会に貢献するというボランティア精神の育成を図り、その活動を支援した。

④児童健全育成相談支援事業

養護教育の専門家を招いて児童及び保護者からの相談に応じ、また関係機関と連携を図り個別または集団への指導及び支援を実施した。

⑤年長児童等来館促進事業

中高生や大学生にイベントへの参加協力を依頼し、来館促進に繋がるような事業を実施した。

(2) 青空児童館

①青空児童館

ア. 派遣型

児童の健全育成を推進している団体からの要望に応え、職員が館外へ出向き遊びのプログラムを提供した（全4回、365名参加）

イ. 指導型

依頼者に来館していただき、遊びのノウハウや工作の作り方を指導した（全2回）

ウ. 常設型

モデル事業として、派遣型の申込団体からの要望や意見を受けとめ、派遣型+αの形態で1団体の利用回数を増やすなどの検討をする予定だったが、派遣型の申込が少なく、派遣型実施時の意見聴取の段階にとどまった。

②遊具貸出

全センターで保有している遊具の貸出を行った（個人231名、団体6団体）

③広報活動

- ・記事掲載—社協だより、広報させば、児童センターだより
- ・チラシ配布やポスター掲示依頼—関係機関11団体
- ・大型パネル設置—派遣型開催会場

(3) ふれあい交流事業

児童センターが、地域社会の中で児童健全育成活動の拠点としての役割を担っていることを、広く市民に知ってもらう機会のこと。また、児童が多くの人達とふれあうことで、責任感・充実感および満足感を味わい、豊かな心を育てるとともに、地域・保護者・関係団体とのネットワークの強化を図ることを目的としている。

「羽ばたけ児童センターまつり」の開催については、各センターが各コーナー（遊び、工作等）を設け、参加者が自由にそれぞれの遊びや体験を楽しんだ。

- ・実施日：令和4年10月30日（日）
- ・実施場所：稲荷児童センター及び南地区コミュニティセンター
- ・来場者数：363名

(4) 令和4年度 佐世保市社会福祉協議会 児童センター ドッジボール大会

令和4年度のドッジボール大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、過去2年間中止していたが、3年ぶりの開催となった。大会は、市内9つの児童センターが総当たりで対戦することで、全館と交流した。

- ・実施日：令和4年9月25日（日）9時から13時まで
- ・実施場所：佐世保市立黒髪小学校体育館
- ・実施内容：佐世保市内の小学生が、異年齢集団でチームを構成し、9つの児童センターが総当たり戦で競技大会を行った。
- ・参加者数：選手96名、応援63名、ほか総勢201名

(5) 第24回「させぼわんぱくひろば」

子育て支援団体として実行委員会に参加し、子ども達が楽しめる遊びを提供することで児童センターとして準備を行ったが、令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により本年度も中止した。

また、児童センターは、実行委員会事務局として業務を行った。

3. 利用実績

(1) 利用者状況

区 分	稲 荷	大 野	黒 髪	相 浦	早 岐	春 日	広 田	山 澄	宇 久	合 計
開 館 日 数	293	293	293	293	293	293	293	293	293	2,637
利 用 者 総 数	3,274	8,987	9,385	4,833	5,612	5,570	9,112	4,205	6,061	57,039
一 日 平 均	11.2	30.7	32.0	16.5	19.2	19.0	31.1	14.4	20.7	21.6
登 校 日	最 高	27	84	61	27	44	31	64	27	33
	最 低	0	0	9	0	0	0	0	0	2
休 校 日	最 高	61	84	75	51	75	49	80	38	39
	最 低	1	0	0	2	0	1	2	1	0
利 用 届 登 録 数	231	208	265	302	289	395	356	271	60	2,377
幼 児 利 用 者 数	242	2,176	193	931	269	1,726	2,319	442	644	8,942
大 人 利 用 者 数	202	1,082	198	835	488	1,322	2,037	1,199	1,709	9,072
一 般 児 童 利 用 数	2,830	5,729	8,794	3,067	4,855	2,522	4,748	2,546	603	35,694
留守家庭児童利 用 数	0	0	200	0	0	0	8	18	3,102	3,328
留守家庭児童利用届登録者	0	0	4	0	0	0	2	1	22	29

老人福祉センターやすらぎ荘事業報告

高齢者の皆さんが、施設の利用をとおして相互の親睦と心豊かな人間関係を育むとともに、健康相談等による健康管理や趣味、レクリエーション等の各種活動に積極的に参加することで、健康で明るく心豊かな生活の向上に資するよう努めた。

利用者がいつまでも笑顔で元気に過ごせるように「健康寿命の延伸」「認知症予防」に重点を移すとともに、若い世代の来館を促進するため新たなサービスに取り組んでいる。

また、施設整備では、2年計画での2階大広間90畳をフローリングにする工事が完了し、健康増進のスペースとして活用している。

1. 運営体制

(1) 職員数 5名

所長1名 事務員1名 管理員2名 パート職員1名

2. 業務内容

- (1) 生活相談
- (2) 健康相談
- (3) 主催講座の運営
- (4) クラブ活動の推進
- (5) 浴場サービス
- (6) 演芸大会の実施
- (7) 主催講座やクラブの作品を発表する文化祭の開催
- (8) 送迎バスの運行（やすらぎ荘－佐世保駅間 午前3回、午後2回）
- (9) 講座の開催
- (10) クラブ活動

3. 利用実績

(1) 利用者数（年度別）

年度	利用者数 (名)	1日平均 (名)	開館日数 (日)	1日の利用者数	
				最高(名)	最低(名)
2	9,401	44	214	79	2
3	7,379	42	175	73	5
4	13,446	46	292	87	6

(2) 利用者数（利用券別） (単位：名)

年度	総数	回数券	老人券	一般券	学生券	団体	無料
2	9,401	8,681	654	66	0	0	0
3	7,379	6,810	509	52	8	0	0
4	13,446	12,364	810	95	31	0	146

(3) 利用料収入 (単位：円)

年度	利 用 料	1 日 平 均
2	1,177,800	5,504
3	922,220	5,270
4	1,650,410	5,652

(4) 健康相談者数 (単位：名)

年度	回数	健康相談者数	1 回 平 均
2	3	27	9
3	5	61	12
4	6	87	15

歯科相談者数
14
17

(5) 送迎バス利用者数 (単位：名)

年度	利 用 者 数
2	2,625
3	2,024
4	6,309

(6) 講座及びクラブ活動

講 座 名	部員数 (名)	開催回数
表 装	16	週1回
茶 道	6	週1回
合 唱	12	週1回
書 道	15	週1回
パソコン	21	週1回
卓 球	11	週2回
太極拳	7	週1回
脳トレそらばん	4	週2回
ヨガセビ-	23	週2回
水墨画	8	週1回
合 計	123	

ク ラ ブ 名	部員数 (名)	開催回数
手 芸	9	週1回
陶 芸	6	週1回
軽音楽	8	週1回
ソーイング	26	週2回
舞 踊	5	週1回
将 棋	14	毎 日
囲 碁	11	週3回
音友会	4	週2回
英会話	6	週1回
声 楽	2	月2回
謡 曲	8	月1回
詩 吟	3	週1回
カラオケ教室	15	週1回
ウクレレ	18	週1回
合 計	135	

(7) 各種行事等

- ①新春演芸大会 1月14日 利用者 37人、職員 5人参加
 ②避難訓練 11月14日 利用者 21人、職員 5人参加
 ③避難訓練 3月 4日 利用者 27人、職員 4人参加

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、公開講座等主催行事は中止した。

老人福祉センターあたご荘事業報告

高齢者の皆さんが、施設の利用をとおして相互の親睦と心豊かな人間関係を育むとともに、健康相談等による健康管理、浴場、趣味及びレクリエーションの提供等の便宜を図り、健康で明るく心豊かな生活の向上に資するよう努めた。

高齢者を中心としたさまざまな人に幅広く利用されるよう、認知度の向上や新たな利用者の獲得への取り組みを進めるため、近隣の支所・コミュニティセンター・自治協議会及び老人クラブ等へ施設の説明に出向くと共に、広報誌への施設紹介記事の掲載を依頼した。

また、あたご荘は、開業から37年目を迎え、令和5年1月に累計来館者数が100万人を達成したため、その記念イベントを開催し、知名度の向上を図った。

なお、施設整備では、集熱器配管修繕工事、浄化槽配管改修工事等を行った。

1. 運営体制

(1) 職員数 6名

所長1名 事務員1名 管理員1名 パート職員3名

2. 業務内容

- (1) 生活相談
- (2) 健康・歯科相談
- (3) クラブ活動の推進
- (4) 浴場サービス
- (5) レクリエーション活動
- (6) 演芸大会の実施
- (7) 講座・講演会等の開催
- (8) 機能回復訓練
- (9) クラブ活動

3. 利用実績

(1) 利用者数（年度別）

年度	利用者数 (名)	1日平均 (名)	開館日数 (日)	1日の利用者数	
				最高(名)	最低(名)
2	11,500	54	213	85	11
3	8,905	51	176	84	11
4	17,966	62	292	94	19

(2) 利用券別

(単位：名)

年度	総数	回数券	老人券	一般券	学生券	団体	無料
2	11,500	9,969	1,147	337	47	0	0
3	8,905	7,351	1,209	269	76	0	0
4	17,966	15,652	1,981	329	4	0	0

(3) 利用料収入

(単位：円)

年度	利 用 料	1 日 平 均
2	1,435,830	6,741
3	1,127,780	6,408
4	2,286,340	7,830

(4) 健康・歯科相談者数

(単位：名)

年度	回数	健康相談者数	1 回 平 均	歯科相談者数
2	4	46	12	13
3	2	15	8	9
4	6	79	13	15

(5) クラブ活動

ク ラ ブ 名	部 員 数 (名)	開 催 回 数
囲碁未来教室	7	週1回
松下囲碁クラブ1	5	週1回
松下囲碁クラブ2	2	週1回
中央研究会(囲碁)	11	週1回
爛柯(囲碁)	5	月2回
光明習塾(筆ペン)	10	月3回
将棋クラブ	12	週5回
手芸教室	6	月3回
KARAOKE 友の会1	8	月3回
KARAOKE 友の会2	6	月3回
俳句会	3	月1回
合 計	75名	

(6) 各種行事等

①春の演芸大会	3月18日	利用者	33人出場
		職員	5人参加
②避難訓練	11月15日	職員	4人参加
③避難訓練	3月10日	職員	3人参加

※ 新型コロナウイルス感染防止対策のため、団体利用(敬老祝賀会等)は中止した。

宇久高齢者生活福祉センター慈恵苑事業報告書

入居者に対して介護支援機能・居住機能及び交流機能を総合的に提供することにより、安心して健康で明るい生活を送れるように支援するとともに、福祉の増進と安定を図った。

1. 運営体制

(1) 職員数 5名

施設長 1 名 生活援助員 2 名（うち代替 1 名） 管理人 2 名

2. 業務内容

(1) 職員目標

- ①入居者の人格を尊重する。
- ②入居者の能力に応じた自立支援を行う。
- ③ご家族と連携を図り適切な支援を行う。
- ④地域や入居者間の交流支援に心がける。
- ⑤コロナ感染予防（居室外でのマスク着用・検温毎日・体調管理等）

(2) 会議

- ①毎日（朝） 宿直との引継ぎ、業務報告（必要時ケース会議）
健康維持（ラジオ体操）
- ②毎月（月初め） 社協宇久支所の各事業との業務連絡会議
- ③毎月（月末） 居住者の状態を全員で把握し、対応等について打合せ
- ④年（1～2回） 家族と行政・社協とによる家族会議
- ⑤年（2回） 居住者と職員による苑内会議
- ⑥年（2回） 運営推進会議

(3) 日課

- ①16時00分 リハビリ～健康・口腔体操
趣味～折り紙・四季の行事
活動～庭の草取り・行事の準備等
入浴（週3回 火・木・土）他、シャワーも必要時
いきいき百歳体操（週1回）

(4) 定期行事等

	行 事		行 事
4 月	花見	10 月	十三夜・ミニレク
5 月	母の日	11 月	文化祭、産業まつり見学（中止）
6 月	父の日	12 月	クリスマス忘年会
7 月	七夕交流会	1 月	新年会
8 月	苑内レクリエーション	2 月	節分
9 月	敬老会	3 月	ひな祭り(歌・バルバレー)

- ・誕生日（当日の昼食時にプレゼント渡す）
- ・清掃の日（月1回） 通常より丁寧に居室の清掃。希望により職員も支援
- ・防災の日（年2回） 居住者のみ避難訓練・近隣施設との連携確認
- ・居室訪問（日1回） 生活援助員が健康観察及び生活衛生面の助言
- ・新聞「ゆかり」の発行（年3回） 家族への情報提供

3. 利用実績

(1) 居住者数 令和4年度末13名 （令和3年度末15名）

宇久地域包括支援センター事業報告書

宇久地域に暮らす高齢者の相談窓口として、高齢者自身の意見を尊重し、自立支援を目標に住み慣れた環境の下で、自分らしい生活を維持できるよう支援に努めた。

また、コロナ禍の中、オンラインシステムを活用し関係機関との情報共有や意見交換・研修の機会を設け、更に地域ケア個別会議により出てきた地域課題を、生活支援コーディネーターや認知症地域支援推進員等と連携するなど、総合相談支援体制づくりに努めた。

1. 運営体制

(1) 職員数 4名

センター長（兼）社会福祉士	1名	主任介護支援専門員	1名
認知症地域支援推進員	1名	介護予防プランナー	1名

(2) 開所時間 9:00～18:00

※ 月曜日～土曜日

2. 業務内容

(1) 総合相談支援業務

高齢者の相談を総合的に受け止めるとともに、訪問して実態を把握し、必要なサービスにつなげる。

(2) 権利擁護支援事業

判断能力の不十分な高齢者等に対し、権利侵害等の予防について支援をする。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント業務

高齢者に対し包括的かつ継続的なサービスが提供されるよう、地域の多様な社会資源を活用したケアマネジメント体制の構築を支援する。

(4) 介護予防ケアマネジメント業務（第1号介護予防支援事業）

介護予防事業が効果的かつ効率的に提供されるよう、必要な援助を行う。

(5) 指定介護予防支援業務

介護保険における予防給付の対象となる要支援者等が介護予防サービス等の利用が行えるよう支援する。

3. 利用実績

(1) 総合相談業務実績

①分類別相談件数（延べ件数）

虐待	1
権利擁護	6
消費生活	1
介護相談	16
生活不安	76
関係事業所への不満	3
ダブルケア	0

介護保険関係	54
施設入所	24
栄養相談	0
介護予防	30
認知症	20
その他	8
合 計	239

②相談受付状況（実件数）

※受付方法

電話	72
窓口	61
訪問	72
所内	2
合 計	207

※相談者の続柄

本人	91
家族	58
地域	19
関係機関	43
その他	2
合 計	213

（２）包括的・継続的なマネジメント業務

（延べ件数）

医療機関との連携	72
認知症疾患医療センターとの連携	5
民生委員との連携	16
関係機関との連携	31
その他会議	63
地域活動出席	71
合 計	258

（３）指定介護予防支援業務

予防給付管理数（延べ）	363
月平均	30